

平成26年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第27条の規定に基づき実施するものです。

(参 考)

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、平成25年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
a	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
b	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
c	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
d	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

平成25年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 学校教育の充実				
1-1：個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進				
1	学校教育の充実	総合的な学習	a	学校教育課
2		学力向上	b	学校教育課
3		幼保小中の連携	b	学校教育課
4		読書活動の推進	b	学校教育課
5		特別支援教育	b	学校教育課
6		外国籍児童生徒の支援	b	学校教育課
7		給食運営	b	学校教育課
8	教育環境の整備 促進	学校施設の耐震化・長寿命化	a	学校教育課
9		学校備品整備・情報教育	b	学校教育課
1-2：高校教育・大学教育との連携				
10-1	高等学校支援	高等学校振興	b	学校教育課
10-2		私立高等学校振興	b	学校教育課
11	大学との連携推進	信州大学・東京藝術大学との連携	b	学校教育課
1-3：心の教育及び支援体制の充実				
12	心の教育と支援	中間教室	b	学校教育課
13		子育て教育支援相談、家庭児童相談	b	学校教育課
14		不登校児童生徒支援ネットワーク	b	学校教育課
15		子どもと親の相談員配置	b	学校教育課
16		スクールカウンセラー配置	b	学校教育課
第2節 生涯学習・芸術文化の振興				
2-1：生涯学習の振興				
17	生涯学習・社会教育の推進	市民大学	b	生涯学習課
18		桜大学	a	高遠長谷教育振興課
19-1		長谷生涯学習講演会	a	高遠長谷教育振興課
19-2		親孝行の讃歌事業	b	高遠長谷教育振興課
20	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	b	生涯学習課
21		公民館建設（施設管理）	a	生涯学習課
22		公民館共同事業	b	生涯学習課
23		公民館事業	b	生涯学習課
24	図書館の充実	蔵書管理	b	生涯学習課
25		図書館イベント	b	生涯学習課
26		図書館分館	b	生涯学習課
27	生涯学習センターの充実	生涯学習センター	b	生涯学習課
28	人権同和教育の推進	社会人権同和教育	b	生涯学習課
29		学校人権同和教育	b	学校教育課

2-2: 青少年健全育成と家庭教育の充実				
30	青少年の健全育成	学童クラブ	b	生涯学習課
31		子ども週末活動の支援	b	生涯学習課
32		少年補導委員会・少年補導センター	b	生涯学習課
33		子ども会・育成会	b	生涯学習課
34		成人式	b	生涯学習課
2-3: 文化の振興				
35-1	文化事業などの充実	伊澤修二記念音楽祭	a	生涯学習課
35-2		い〜な音楽祭	b	生涯学習課
36		市民音楽祭	b	生涯学習課
37		信州伊那井月俳句大会	b	生涯学習課
38		進徳館の日	b	高遠長谷教育振興課
39		伊那能	b	生涯学習課
40	博物館などの整備・活用	創造館	a	生涯学習課
41		高遠町歴史博物館	b	高遠長谷教育振興課
42		信州高遠美術館	b	生涯学習課
第3節 文化財の保存・継承・活用				
3-1: 文化財の保存・継承・活用				
43	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	b	高遠長谷教育振興課
44		民俗資料館	b	高遠長谷教育振興課
45		旧井澤家住宅	b	生涯学習課
46		考古資料館	b	生涯学習課
47		民俗文化の伝承	b	生涯学習課
第4節 スポーツ・レクリエーションの振興				
4-1: 豊かなスポーツライフの実現				
48	スポーツライフの実現	市民体育祭	b	スポーツ振興課
49		総合型地域スポーツクラブ	a	スポーツ振興課
50		春の高校伊那駅伝	a	スポーツ振興課
51		ソフトボールの振興	a	スポーツ振興課
52		体育施設の整備	a	スポーツ振興課

第1節 学校教育の充実

1-1: 個性や豊かな人間性を育む学校教育の推進

豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら学び、自ら考える「生きる力」を育むため、地域の自然、歴史、産業等に根ざした特色ある教育を進めます。また、基礎・基本の学力の確実な定着を図るとともに、一人ひとりの個性や人権を尊重した教育の充実をめざします。

(1) 学校教育の充実

事務事業	No.1	総合的な学習	H25年度決算額	5,091千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学習」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	平成25年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育(ヤギ・羊・アルパカ他)、農作物栽培、演劇、調理など	
		伊那東	稲・野菜・花栽培、伊那まつり踊り練習と参加、貧困国支援など	
		伊那北	稲・野菜栽培、保育園・高齢者との交流、里山自然パーク作りなど	
		伊那西	稲・小麦・野菜・シイタケ栽培、地域紹介パンフレット作りなど	
		富県	稲・野菜・花栽培、太鼓交流会、震災被災地との交流など	
		新山	新山の探検・歴史学習、白毛もち・野菜栽培、新山まつり参加など	
		美篤	鶏・蚕飼育、稲・野菜栽培、キムチづくり、保育園との交流など	
		手良	稲・野菜・花栽培、収穫物調理、和太鼓・箏曲等邦楽学習など	
		東春近	稲・野菜・花栽培、東春近探検、りんご学習、宿泊活動など	
		西箕輪	野菜栽培、保育園・養護学校・福祉施設との交流、縄文体験など	
		西春近北	稲栽培、蚕飼育、地区史跡学習、和太鼓演奏など	
		西春近南	全校飯盒炊爨、そば・野菜栽培、豆腐作り、ドッジボール交流など	
		高遠	稲・小麦・野菜栽培、オペレッタ上演、学校・高遠城歴史学習など	
		高遠北	ふるさと探検、稲・野菜・花栽培、草木染製作など	
	長谷	稲・野菜栽培、ふるさと探検、孝行猿学習、ふるさと祭り参加など		
	中学校	伊那	職場体験学習、調査体験的活動(農業・国際交流)、ギネス挑戦など	
		東部	地域の方や自然に学ぶ活動、ビデオ・映画製作、進路学習など	
		西箕輪	伝統芸能を学ぶ、福祉交流、職場体験、ふるさとCM製作など	
春富		さつまいも栽培、進路学習、職場体験、福祉体験など、		
高遠		キャリア学習、キャンプ、森林学習、職場体験、高遠太鼓など		
長谷		地域の歴史探訪、福祉交流、職業学習、美術鑑賞など		
事業の課題及び方向性	<p>【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学習」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。</p> <p>【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.2	学力向上	H25 年度決算額	3,774 千円
事業の目的	自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた学習指導を行います。 また、中学校の放課後行われる自発的な学習活動を支援します。			
事業内容	○標準学力検査（NRT）の実施 ・小学4年生（679人）算数・小学5年生（668人）国語、算数、 ・中学2年生（642人）国語、数学、英語 ○学力検査結果の分析と授業改善 ○中学生の放課後学習支援事業の実施			
達成状況	○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて10年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。 ○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力検査検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」（63人参加）を開催し、先進事例の発表をと情報交換を行いました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援をしました。 受講生徒数 491人（H23:540、H24:573人） 支援員数 49人（H23:52人、H24:48）			
事業の課題及び方向性	【課題】平成25年度に市が実施した標準学力検査の偏差値では、小学校4年生の算数と5年生の国語で全国平均を上回りましたが、5年生の算数で平均を下回りました。中学校では、国語・英語で全国平均を上回りましたが、数学は、平均を下回りました。なお、中学校では、いずれの科目でも女子の偏差値が男子を上回っています。 【方向性】学力検査などの分析を、児童生徒一人ひとりの学習指導に活かすとともに、体験的な学習やグループ学習を取り入れたり、授業をもっと良くする3観点を特に意識した授業改善に取り組み、児童生徒の自発的な学習を促進します。 また、家庭や地域などと連携し、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」、「ノーテレビ・ノーゲーム」などの生活習慣の定着を進めます。 引き続き、学校ボランティアの募集を行い、学力向上支援員等の確保に努めます。			
自己評価	b			



高齢者クラブの皆さんとのよもぎ採り・交流会
(長谷小学校)



「さくらプロジェクト」仙台市立高砂中学校へ
タカトオコヒガンザクラの植樹
(東部中学校)

事務事業	No.3	幼保小中の連携	H25年度決算額	0千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるよう幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適応、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づき、地域的な特性を生かした各学校の接続期カリキュラムを作成しました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「発育発達支援票」を作成し、幼・保・小・中の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 小1プロブレム、中一ギャップと言われる進学時の学校不適応への対応が求められています。</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。 ・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。 			
自己評価	b			

事務事業	No.4	読書活動の推進	H25年度決算額	41,608千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○図書館司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校行っています。</p> <p>○全校に配置した学校図書館司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>【参考】 図書館の本の1人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 105.3冊（H22:97.1 H23:93.0 H24 100.3）冊</p> <p>中学校 22.6冊（H22:24.3 H23:22.3 H24:24.9）冊</p> <p>児童生徒1人当たり蔵書数 37.2冊（H22:35.1冊、H23:36.7冊、H24:37.3冊）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。</p> <p>【方向性】 引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える図書館司書を配置します。</p> <p>読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.5	特別支援教育	H25年度決算額	41,937千円																																		
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。																																					
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置 ○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○ 「ことばの教室（伊那小学校内）」の設置、運営 ○ 特別支援教育就学奨励費の支給 																																					
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別支援学級に在籍する指導生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。 <p>【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">小学校</th> <th colspan="2">中学校</th> <th rowspan="2">支援員数 内()講師数</th> </tr> <tr> <th>児童数</th> <th>クラス数</th> <th>生徒数</th> <th>クラス数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成22年度</td> <td>127</td> <td>30</td> <td>49</td> <td>12</td> <td>23(1)</td> </tr> <tr> <td>平成23年度</td> <td>141</td> <td>32</td> <td>68</td> <td>13</td> <td>25(1)</td> </tr> <tr> <td>平成24年度</td> <td>152</td> <td>33</td> <td>73</td> <td>15</td> <td>28(1)</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>161</td> <td>34</td> <td>75</td> <td>15</td> <td>26(1)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">特別支援教育就学奨励費の支給 150人 (H22:102、H23:121人、H24:130人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒60名) 					小学校		中学校		支援員数 内()講師数	児童数	クラス数	生徒数	クラス数	平成22年度	127	30	49	12	23(1)	平成23年度	141	32	68	13	25(1)	平成24年度	152	33	73	15	28(1)	平成25年度	161	34	75	15	26(1)
	小学校		中学校			支援員数 内()講師数																																
	児童数	クラス数	生徒数	クラス数																																		
平成22年度	127	30	49	12	23(1)																																	
平成23年度	141	32	68	13	25(1)																																	
平成24年度	152	33	73	15	28(1)																																	
平成25年度	161	34	75	15	26(1)																																	
事業の課題及び方向性	<p>【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒が増加する傾向にあります。また、通常学級においても学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの将来を見通した指導・助言を行うとともに、必要に応じて支援員を配置します。</p> <p>また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。</p>																																					
自己評価	b																																					

事務事業	No.6	外国籍児童生徒の支援	H25年度決算額	6,268千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○日本語教室の設置、運営(伊那東小、伊那北小、東部中) ○外国語児童生徒支援相談員の設置(伊那東小、伊那北小、東部中) ・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置(伊那東小) 			

達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。				
	【参考】外国籍児童 生徒数		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
		平成 22 年度	25	20	21
		平成 23 年度	24	23	22
		平成 24 年度	27	23	20
平成 25 年度	30	27	20		
その他 小学校 6 校 18 人、中学校 5 校 11 人					
事業の課題 及び方向性	【課題】 障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 【方向性】 日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。				
自己評価	b				

事務事業	No.7	給食運営	H25 年度決算額	263,932 千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の縮減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(平成 25 年度県内産食材利用率 約 49.5%) 【参考】 給食提供数 1,362,986 食 (H23:1,387,344、H24: 1,375,516) 給食技師数 73 人 (H23:74、H24: 73 人) 給食 1 食あたりの経費 194 円 (H23:204 円、H24:204 円)			
事業の課題 及び方向性	【課題】 子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】 各学校と連携を取りながら、伊那市学校給食あり方作業部会報告書の提言で示された、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性の育成に取り組みます。また、人的配置、食材調達など効率的な給食運営を図るとともに、学校給食施設整備計画に基づき、計画的に施設の整備を行います。			
自己評価	b			



給食試食会の様子

(2)教育環境の整備促進

事務事業	No.8	学校施設の耐震化・長寿命化	H25年度決算額	1,073,519千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校の耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の補修等整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○補強工事等 新耐震基準に適合していない建物について耐震診断を行い、耐震補強等が必要であると診断された建物について耐震工事を実施します。</p> <p>○補修工事等</p>			
達成状況	<p>○耐震補強・トイレ改修工事等</p> <p>(1) 補強・改築工事の実施 西箕輪小学校管理教室棟・特別教室棟、伊那北小学校玄関棟・体育館、西箕輪中学校特別教室棟・玄関棟、東部中学校管理教室棟・玄関図書館棟改築・武道場新築 耐震化率96.1% (H24:88.3%)</p> <p>(2) トイレ改修工事等の実施 西箕輪小学校 (管理教室棟・特別教室棟・普通教室棟 6箇所)</p> <p>○ 補修工事等</p> <p>(1) 富県小学校体育館屋根改修工事・5小中学校オイルタンク地上化工事</p> <p>(2) 春富中学校敷地内舗装工事・伊那小学校ペレットストーブ設置工事</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】構造部材の耐震化は平成26末で市内全校が完了するが、非構造部材の耐震化はほとんどの学校が未施工である。</p> <p>【方向性】平成26年度末までに、有利な財源を利用して耐震化率を100%にします。また、引き続き非構造部材の耐震化工事を推進します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.9	学校備品整備・情報教育	H25年度決算額	29,860千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<p>○一般教材・理科教材備品の整備</p> <p>○教育用パソコン、ネットワーク環境の整備</p>			
達成状況	<p>○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。</p> <p>○情報委員会を開催し、情報セキュリティーに対する意識向上を図りました。</p> <p>○平成25年度は、前年度に引き続き新学習指導要領に対応するための教材備品の整備を進めるとともに、H26の情報機器(タブレット端末)更新計画案を作成しました。</p> <p>【参考】教育用パソコンの台数 665台 (H22:665、H23: 665台) PC教室の1人当たりPC台数1台 (H23:1、H24:1台)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】新学習指導要領に対応する教材備品の整備と、情報機器等の適切な管理を行う必要があります。また、パソコン・タブレット等との上手な付き合い方を身につける必要があります。</p> <p>【方向性】学校からの要望に基づき教材備品や情報機器(タブレット他)を整備するとともに、情報セキュリティー意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>			
自己評価	b			

1-2：高校教育・大学教育との連携

高等学校教育の充実のための支援を実施するとともに、大学との連携により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校への支援

事務事業	No.10-1	高等学校振興	H25 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成 23 年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>【参考】</p> <p>○平成 7 年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成 21 年度から 3 年間）、長野大学、日本福祉大学、東京芸術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成 24 年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取り組みを進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 15 年度</th> <th>平成 23 年度</th> <th>平成 24 年度</th> <th>平成 25 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>124</td> <td>103</td> <td>103</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 124 人、1,600 千円（H23:83 人、933 千円、H24:108 人、1,347 千円）</p>					平成 15 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	入学者数	124	103	103	118	定員	120	120	120	120
	平成 15 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度															
入学者数	124	103	103	118															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】 高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	b																		

事務事業	No.10-2	私立高等学校振興	H25 年度決算額	1,000 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】</p> <p>定額補助 1 校当たり 600,000 円（H22 年度より 600,000 円） 生徒割補助 1 人当たり 2,600 円（H22 年度より 2,600 円） 伊那市に住所を有する生徒数 154 人（H22:186、H23:159 人 H24:158 人） 全校生徒数 473 人（H22:487、H23: 466 人、H24 : 486 人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 昭和 63 年より普通コース、進学コースの 2 コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実等に努めていますが、1</p>			

	<p>学年の定員 180 人のところ平成 25 年度は 149 名と定員確保が厳しい状況が続いています。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行ないます。</p>
自己評価	b

(2) 大学との連携推進

事務事業	No.1 1	信州大学・東京藝術大学との連携	H25 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<p>○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 5 人 (H24:8 人)</p> <p>○信州大学農学部の教職免許取得学生の研修受入れ</p> <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <p>・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p>【方向性】様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。</p>			
自己評価	b			

1-3：心の教育及び支援体制の充実

小中学校における心の問題や不登校、いじめ問題の解消に努めるとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

(1)心の教育と支援

事務事業	No.1 2	中間教室	H25 年度決算額	4,181 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の57%、中学生の71%が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】 通室者数 小学部7人 (H22:7、H23:7人、H24:6人) 中学部14人 (H22:13、H23:20人、H24:11人) 通室割合 (通室児童生徒数/不登校児童生徒数) 小学部 58.3% (H22:53.8、H23:35.7、H24:40.0%) 中学部 28.6% (H22:21.3、H23:32.3、H24:25.0%)			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	b			

☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 3	子育て教育支援相談、家庭児童相談	H25 年度決算額	25,047 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○関係機関との連携及び支援（保健・医療・福祉・教育・警察・司法等） ○要保護児童生徒（虐待を受けている児童、非行、虞犯等）の保護 ○個別支援検討会議による関係機関の役割分担と連携 ○就学相談 ○指定相談支援事業所の運営 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○発達障害を持つ子どもが人とうまくかかわっていくための方法を身につけるためのソーシャルスキルトレーニング（SST）や親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子供の安全を守るための支援を強化しました。 <p>【参考】相談・支援数 7,646 件（H23：2,339 件 H24：2,997 件） 個別支援検討会議 299 回（H23：165 回 H24：258 回） 就学相談委員会に諮った幼児児童生徒数：84 名（H23：71 名 H24：91 名） サービス等利用計画作成数：13 人 モニタリング：14 回</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】今後は問題が深刻化する前に対応するため、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.1 4	不登校児童生徒支援ネットワーク	H25 年度決算額	23,435 千円																				
事業の目的	子ども相談室を中心に、学校、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。																							
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○学校、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援に取り組む。 ○中学校への教員補助員配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援 																							
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○平成 21 年度以降は増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。 ○不登校・不適応の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への教員補助員等を配置しました。（5 中学校へ 8 人、不登校支援コーディネーター 1 名） <p>【参考】不登校児童生徒数・割合 () は%</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H20</th> <th>H23</th> <th>H24</th> <th>H25</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>30 人 (0.70)</td> <td>15 人 (0.37)</td> <td>15 人 (0.37)</td> <td>12 人 (0.30)</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>70 人 (3.27)</td> <td>62 人 (2.91)</td> <td>44 人 (2.11)</td> <td>49 人 (2.34)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100 人 (1.56)</td> <td>77 人 (1.24)</td> <td>59 人 (0.96)</td> <td>61 人 (0.99)</td> </tr> </tbody> </table>					H20	H23	H24	H25	小学校	30 人 (0.70)	15 人 (0.37)	15 人 (0.37)	12 人 (0.30)	中学校	70 人 (3.27)	62 人 (2.91)	44 人 (2.11)	49 人 (2.34)	合計	100 人 (1.56)	77 人 (1.24)	59 人 (0.96)	61 人 (0.99)
	H20	H23	H24	H25																				
小学校	30 人 (0.70)	15 人 (0.37)	15 人 (0.37)	12 人 (0.30)																				
中学校	70 人 (3.27)	62 人 (2.91)	44 人 (2.11)	49 人 (2.34)																				
合計	100 人 (1.56)	77 人 (1.24)	59 人 (0.96)	61 人 (0.99)																				

事業の課題及び方向性	<p>【課題】早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。</p> <p>【方向性】スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組みを進めます。</p>		
自己評価	b		

事務事業	No.15	子どもと親の相談員の配置	H25年度決算額	11,064千円
事業の目的	<p>児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。</p>			
事業内容	<p>○ 児童の話し相手・悩み相談</p> <p>○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む）</p> <p>○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等</p> <p>○ 市費相談員の配置</p> <p>相談員13人（県費1名市費12名）を15校へ配置（2校兼務2人）</p>			
達成状況	<p>小学校における延べ相談件数 6,584件 (H22:8,227、H23:8,428件、H24:6,726件)</p> <p>中学校における延べ相談件数 5,727件 (H22:3,952、H23:5,176件、H24:4,682件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】不登校やいじめに発展する前の早期対応が重要であり、不適応児童生徒やその保護者に対する、相談支援体制の一層の充実が求められています。</p> <p>【方向性】必要に応じて専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.16	スクールカウンセラーの配置	H25年度決算額	1,175千円
事業の目的	<p>児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。</p>			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校</p> <p>・県費配置4人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で上乗せし対応しました。</p> <p>【参考】相談件数 小学校延べ565件 (H22:555、H23:534件 H24:851件) 中学校延べ497件 (H22:702、H23:859件 H24:871件)</p> <p>相談配当時間 県費 864時間 (H22:782、H23:911、H24:858時間) 市費 284時間 (H22:256、H23:288、H24:222時間)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められていますが、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。</p>			
自己評価	b			

第2節 生涯学習・芸術文化の振興

2-1：生涯学習の振興

自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりを進めます。

ライフスタイルの多様化などにより、生涯学習に対するニーズや関心は、ますます高まっています。第1次伊那市総合計画に基づき平成22年度末に策定した、生涯学習の総合的な指針「生涯学習基本構想」の基本理念「共に学び、今に生かし、更に深め、未来へとつなぐ」に基づき、生涯学習事業を推進します。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.17	市民大学	H25年度決算額	2,656千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	受講者は、各学年定員を超過している状況で、市民の学習要求の高さが現れています。この学習要求に応えるため、学生による自主運営を行いながら、講座内容の充実を図っています。			
	平成25年度 講座内容			
	「われこそ先に～山の子どもに命をかけた林芋村」(講師：鋤柄郁夫)			
	JICA国際協力出前講座「海外派遣での活動体験から」(講師：尾崎真理子)			
	「トーク&コンサート」(講師：美咲蘭)			
	「今田人形浄瑠璃公演」(公演：今田人形保存会)			
	ふるさと講座「地域の元気」(講師：小原洋一)			
	信大出前講座「歴史から見る海溝型巨大地震とその被害予測」(講師：廣内大助)			
	「井上井月放浪の旅」(講師：北村皆雄)			
	「野草講座・田の原自然公園」(講師：柄山祐希)			
	「高度医療に命救われて～伊那市の教育課題と現状～」(講師：久保村清一 副学長)			
	「市政よもやま」(講師：白鳥孝 学長)			
	人権同和教育講座「桜の花びらに祈りの心」(講：佐治妙心)			
	「ふるさとの笑顔からみえるもの」(講師：浦野栄一)			
	「心!・身体!・まるごと元気」(講師：山岸洋子)			
	「ハッチョウトンボ～日本一小さなトンボを守る～」(講師：筒井弘)			
	「宇宙からのメッセージ～宇宙人はいるのか」(講師：野口輝雄)			
「石川啄木から学ぶ」(講師：堀井正子)				
「中国世界遺産を描く」(講師：山路智恵)ほか9講座 計26講座				
事業の課題及び方向性	【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。			
	【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、2年間の学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。さらに、大学院の設置について検討しました。			
自己評価	b			

事務事業	No.18	桜大学	H25年度決算額	220千円
事業の目的	生活にうるおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習を推進します。			
事業内容	講座の開催 ・4回開催(4月29日～3月15日 会場:やますそ)			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、35回目を迎えた伝統ある大学です。			
	平成25年度講座内容(講師)			
	「武田氏と保科氏の動向」(山梨県立博物館学芸員・海老沼 真治氏)			
	「小説家 島村利正」(演劇評論家・文芸雑誌「新潮」元編集者・岩波 剛氏)			
	「信州教育の再生に向けて―学校を地域に開き地域で子供を育もう」 (長野県教育委員会 教育長・伊藤学司氏)			
事業の課題及び方向性	「伊那の米はなぜおいしいか―風土が作るブランド米」 (信州大学農学部食糧生産学科教授・井上 直人氏)			
	【参考】受講者数670人(H23:555人、H24:600人)			
自己評価	a			

事務事業	No.19-1	長谷生涯学習講演会	H25年度決算額	440千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催(11月9日 会場:長谷公民館) ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	平成25年度 講演 「脳力の育て方」(脳科学者 澤口俊之氏) 脳科学者で人間性脳科学研究所長の澤口氏を招き、人間の脳の不思議や幼少期に注意すべき事項等をテーマに講演いただいた。 【参考】受講者数204人(H23:187人 H24 168人)			
事業の課題及び方向性	【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。 【方向性】住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.19-2	親孝行の讃歌事業	H25年度決算額	2,918千円
事業の目的	民話「孝行猿」の教育への活用と長谷地域の振興を図ります。			
事業内容	「今、伝えたい親へのおもい」を一般の部・小中学生の部に分け公募しました。			
達成状況	応募状況 一般の部405点・小中学生の部514点 合計919点 入選作品 一般の部 孝行賞3点ほか入選11点 佳作11点 小中学生の部 孝ちゃん最優秀賞1点ほか 孝ちゃん賞15点 佳作19点 公募期間 平成25年6月1日～9月10日 表彰式 平成26年1月25日開催			
事業の課題及び方向性	【課題】公募体制の全国的な展開と孝行猿を活かした地域振興策の実施が求められています。 【方向性】まずは友好都市や関係ある市町村の協力を得て、全国的な展開を図ります。			
自己評価	b			

(2) 公民館活動の推進

事務事業	No.20	集会施設整備事業補助	H25年度決算額	6,107千円	
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。				
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。 ・対象施設及び交付基準				
	施設区分	事業区分	補助要件等		
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設	新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上		
		増築・改築・ 改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上		
	町内会・常 会・組等が管 理運営する集 会施設	新築・増築	対象外		
		改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
		水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上		
		外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上		
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 12件 6,107千円 (H22:8、H23: 8件、H24: 8件) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。				
事業の課題 及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の 拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に、費用の一 部を補助します。				
自己評価	b				

事務事業	No.2 1	公民館建設（施設管理）	H25 年度決算額	51,317 千円
事業の目的	地域の生涯学習の拠点整備や地域コミュニティの形成など地域づくりを推進するため、老朽化した公民館を計画的に建て替えます。 また、公民館の施設維持に必要な改修等を行いません。			
事業内容	○施設改築 西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えについて順次計画を策定 ○施設改修等整備			
達成状況	○本年度は、実施計画に沿って西箕輪公民館建設・旧市民会館解体を行いました。 伊那公民館、手良公民館の建て替え計画を具体化しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】西箕輪公民館、伊那公民館、手良公民館の建て替えを計画的に進める必要があります。 【方向性】有利な財源を確保しながら計画的に建設を進めます。			
自己評価	a			

事務事業	No.2 2	公民館共同事業	H25 年度決算額	7,196 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9 公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。 地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○「キッズ王国」（小学生以下対象）などの開催 ○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「キッズ王国」（660 人） ・「ふるさと講座」（東春近、高遠 260 人） ・84 分館に活動委託 ・館報毎月発行第 4 1 5 号～第 4 2 6 号			
事業の課題及び方向性	【課題】児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 また、連携の目的や効果を検討し、事業の企画や運営を行う必要があります。 【方向性】縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.23	公民館事業	H25年度決算額	4,149千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいきづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	平成25年度活動内容(特徴的なもの)		
	伊那	夏休みおいで塾、小学生将棋教室、らっこルーム、伊那おやじの会、絵手紙教室、陶芸教室、元旦ジョギング、野草講座、探鳥会など		
	富県	夏休み・富県こどもおいで塾、こども公民館書道教室、富県と良寛さん、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、生きもの探検隊など		
	美篁	親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、すくすくベビー、母から娘へ伝えたい味講習会、童謡・唱歌の集いなど		
	手良	わいわいくらぶ、俳句教室、野草講座、文化祭、ゴルフ教室など		
	東春近	子ども体験教室、楽生学級、フォークソング奏で隊、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、区民ハイキングなど		
	西箕輪	わんぱく親子塾、テニス教室、通学合宿、脳イキイキ出前講座、夏・秋・冬の自然観察会、高原マラソン大会、星空観察会など		
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など		
	高遠	進徳館夏の学校、高遠中学校通学合宿、里山の文化を歩く講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、ハーモニカ教室、南アルプスジオパーク講座など		
	長谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、歩け歩け運動、おさんぽくらぶなど		
	【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数数 150,949人 (H23: 165,606人、H24: 167,808人)			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>			
自己評価	b			

(3) 図書館の充実

事務事業	No.24	蔵書管理	H25年度決算額	7,280千円																																																			
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																																						
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・修理、廃棄） ○空間利用（書架などの配置・案内表示） ○図書館システムの維持・管理と更新																																																						
達成状況	<p>優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。</p> <p>○平成25年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館外壁タイルの打音検査を実施しました。（伊那） ・前年度に引き続き、古文書デジタル化を進めました。（高遠） <p>【参考】 蔵書数は図書のみ、（ ）内H24</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>213,934 (211,291)</td> <td>369,723 (369,248)</td> <td>48,930 (50,675)</td> <td>75,318 (76,521)</td> </tr> <tr> <td>高遠図書館</td> <td>93,248 (92,799)</td> <td>49,495 (54,927)</td> <td>6,064 (6,152)</td> <td>10,929 (11,013)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・他市町村比較表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり貸出冊数（冊）</th> <th>登録率％ （登録者数／人口）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>5.8</td> <td>6.3</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.3</td> <td>6.4</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.1</td> <td>4.0</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.6</td> <td>4.4</td> <td>52</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>7.7</td> <td>6.2</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>5.7</td> <td>7.6</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>12.1</td> <td>6.6</td> <td>99</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>6.6</td> <td>5.8</td> <td>73</td> </tr> </tbody> </table>				名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	213,934 (211,291)	369,723 (369,248)	48,930 (50,675)	75,318 (76,521)	高遠図書館	93,248 (92,799)	49,495 (54,927)	6,064 (6,152)	10,929 (11,013)		人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）	伊那市	5.8	6.3	84	駒ヶ根市	5.3	6.4	50	辰野町	4.1	4.0	78	箕輪町	2.6	4.4	52	飯島町	7.7	6.2	90	南箕輪村	5.7	7.6	60	中川村	12.1	6.6	99	宮田村	6.6	5.8	73
名称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																																			
伊那図書館	213,934 (211,291)	369,723 (369,248)	48,930 (50,675)	75,318 (76,521)																																																			
高遠図書館	93,248 (92,799)	49,495 (54,927)	6,064 (6,152)	10,929 (11,013)																																																			
	人口一人当たり蔵書冊数（冊）	人口一人当たり貸出冊数（冊）	登録率％ （登録者数／人口）																																																				
伊那市	5.8	6.3	84																																																				
駒ヶ根市	5.3	6.4	50																																																				
辰野町	4.1	4.0	78																																																				
箕輪町	2.6	4.4	52																																																				
飯島町	7.7	6.2	90																																																				
南箕輪村	5.7	7.6	60																																																				
中川村	12.1	6.6	99																																																				
宮田村	6.6	5.8	73																																																				
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。</p> <p>【方向性】 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。</p>																																																						
自己評価	b																																																						

(4)生涯学習センターの充実

事務事業	No.27	生涯学習センター	H25年度決算額	83,486千円																								
事業の目的	市民に生涯学習の機会を提供するとともに、中心市街地の活性化と活力あるまちづくりを推進するため、生涯学習センターを適正かつ円滑に管理運営します。																											
事業内容	○施設管理 生涯学習センター部分は直営で管理し、ビル共用部分は共益費を負担して「いなっせ管理組合」が管理 ○貸し館業務 ○自主事業の運営																											
達成状況	利用者数に若干の変動はあるものの、自主事業などに多数の参加があり、貸し館としての稼働率も高く、中心市街地の誘客に役割を果たしています。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">平成25年度 自主事業 (内容)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%;">芸術文化体験教室 (イタリア料理、クラシックバレエ、ステンドグラスほか)</td> <td style="width: 50%;">20講座</td> </tr> <tr> <td>第10回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第9回伊那谷伝統文化公演 (田楽座、山寺やきもち踊り、羽広獅子舞ほか)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>音楽公演事業 (「福田直樹ピアノリサイタル」ほか)</td> <td>7事業</td> </tr> <tr> <td>四季のコンサート (「春を呼ぶフルーツアンサンブル」ほか)</td> <td>6事業</td> </tr> <tr> <td>青少年音楽事業 (「singing on the road 2〜湯澤かよこLive」ほか)</td> <td>9事業</td> </tr> <tr> <td>フライデーコンサート (「ぴあ・べる」ほか)</td> <td>1事業</td> </tr> <tr> <td>軒下コンサート (楠州流聖楠会 1団体)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主企画教室 (文学講座ほか)</td> <td>11講座</td> </tr> <tr> <td>自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】利用室数 9,463 コマ (H23:9,619、H24:10,135 コマ) 利用者数 166,461 人 (H23:171,780、H24:173,599 人) 各室平均稼働率 56.0% (H23:57.6、H24:60.0%)</p>				平成25年度 自主事業 (内容)		芸術文化体験教室 (イタリア料理、クラシックバレエ、ステンドグラスほか)	20講座	第10回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)		第9回伊那谷伝統文化公演 (田楽座、山寺やきもち踊り、羽広獅子舞ほか)		音楽公演事業 (「福田直樹ピアノリサイタル」ほか)	7事業	四季のコンサート (「春を呼ぶフルーツアンサンブル」ほか)	6事業	青少年音楽事業 (「singing on the road 2〜湯澤かよこLive」ほか)	9事業	フライデーコンサート (「ぴあ・べる」ほか)	1事業	軒下コンサート (楠州流聖楠会 1団体)		語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)		自主企画教室 (文学講座ほか)	11講座	自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)	
平成25年度 自主事業 (内容)																												
芸術文化体験教室 (イタリア料理、クラシックバレエ、ステンドグラスほか)	20講座																											
第10回伊那市民芸術文化祭 (舞台発表の部、美術展の部)																												
第9回伊那谷伝統文化公演 (田楽座、山寺やきもち踊り、羽広獅子舞ほか)																												
音楽公演事業 (「福田直樹ピアノリサイタル」ほか)	7事業																											
四季のコンサート (「春を呼ぶフルーツアンサンブル」ほか)	6事業																											
青少年音楽事業 (「singing on the road 2〜湯澤かよこLive」ほか)	9事業																											
フライデーコンサート (「ぴあ・べる」ほか)	1事業																											
軒下コンサート (楠州流聖楠会 1団体)																												
語学教室 (日本語教室さくら組、初級・中級 韓国語講座)																												
自主企画教室 (文学講座ほか)	11講座																											
自主企画イベント (春休み子ども人形劇場)																												
事業の課題及び方向性	<p>【課題】学習及び文化活動を通し市民相互の交流を促進するとともに、中心市街地の活性化に効果のある施設の運用について、更に検討する必要があります。</p> <p>【方向性】利用者ニーズにあった自主事業を推進します。また、開館日数、開館時間など利用者の利便を図るとともに、利用者の意見を反映させることができる管理運営方法について検討を進めます。</p>																											
自己評価	b																											



高遠ぶらりワークショップ
(伊那図書館)



伊那の近現代史講座
(生涯学習センター)

(5) 人権同和教育の推進

事務事業	No.28	社会人権同和教育	H25年度決算額	2,269千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題だけでなく、いじめなどの問題も含め、人権問題について学習する機会を提供します。 ・人権同和教育講座・学級などの開催 ・情報紙「えがお」の発行 			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。</p> <p>【参考】講演会3回・1,530人（H22:3回・823人、H23:3回・646人、H24:3回・1,063人） 公民館人権講座11回・389人 （H22:10回・538人、H23:11回・456人、H24:11回・400人） 人権同和教育学級 休会（H22:39、H23:32回、H24:3回）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】同和対策関係特別措置法は失効しましたが、基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、「いじめ」など全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】市民の重要課題として、人権教育の場や情報の提供など、啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.29	学校人権同和教育	H25年度決算額	1,578千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な活動の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てる。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校1名） ○ 副読本「あけぼの」配布（小学1・3・5年生、中学1年生） ○ 人権教育講演会等の実施 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践した。 ○ 伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 4回 学社連携による推進会議（2回）職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催。 ○ 人権同和教育副読本「あけぼの」を小学校1.3.5年生、中学校1年生に配布し活用 ○ 人権教育プログラムCAPワークショップを8小学校で実施 （H25:児童259人 教職員・保護者191人、H24:児童442人 教職員・保護者237人） 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取り組みを通じ豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	b			

2-2：青少年健全育成と家庭教育の充実

青少年の健全育成に向けて、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実策に取り組みます。

(1) 青少年の健全育成

事務事業	No.30	学童クラブ	H25年度決算額	48,232千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小(2クラブ)、伊那東小(2クラブ)、伊那北小(2クラブ)、伊那西小、富県小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の14校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・伊那北小学童クラブは2クラブ体制で対応しています。 【参考】学童クラブ17箇所 (H23:16箇所、H24:17箇所) 入所者数519人 (H23:494、H24:504人) クラブ設置小学校数/小学校数93% (H23:87、H24:93%) 入所者数/児童数12.8% (H23:12.2、H24:12.4%)			
事業の課題及び方向性	【課題】保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】大規模クラブの解消(分割)や老朽・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、指導員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.31	子ども週末活動の支援	H25年度決算額	1,250千円
事業の目的	週末の子どもの居場所づくりの一環として、体験活動を通して「ものの見方、考え方、協力、自主性」などを身に付けるとともに、地域で主体的に活動できるジュニア・リーダーの育成を図ります。			
事業内容	はなまる地域探検隊の設置 ・概ね小学3年生以上の市内小中高校生が交流			
達成状況	学年の枠を越えた仲間の中で、協力し合い、多くのことを体験することにより、地域で自分たちが活躍できる資質を身に付けています。 ○平成25年度の主な活動 ・わんぱく広場参加、ふるさと探検、郷土食づくり、夏のアカデミック探検、焚火教室、国際交流など。 ・はなまる探検隊から育った高校生が推進委員として企画・運営へ参加している。 【参考】隊員数(小・中学生)83人 (H23:96、H24:91人) ボランティアスタッフ(高校生・大学生)59人 (H23:23、H24:27人)			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもの居場所、縦割りの仲間づくりに重要な組織。今後の支援、関わり方 【方向性】設立から10年が経過し、平成24年度より「はなまる探検隊」として自主的な運営を期待し、委託事業としている。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 2	少年補導委員会・少年補導センター	H25 年度決算額	1,115 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭指導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭指導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭指導を実施。 ・「補導センターだより」の発行（年 2 回）			
達成状況	街頭指導による指導件数は減少傾向にあり、指導が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 【参考】補導活動延べ人員 417 人（H23:461、H24: 431 人） 指導（声かけ）件数 34 件（H23:198、H24:66 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.3 3	子ども会・育成会	H25 年度決算額	2,755 千円
事業の目的	青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が子どもに係る各種事業を行います。			
事業内容	○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画			
達成状況	子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。 ○平成 25 年度各地区育成会実施事業 有害環境チェック活動（7,2 月）魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等			
事業の課題及び方向性	【課題】地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。 【方向性】子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。			
自己評価	b			

伊那市よりよい教育環境推進連絡会



事務事業	No.34	成人式	H25年度決算額	1,138千円
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。			
事業内容	成人式の実施 ・公民館単位10地区で実施			
達成状況	平成21年度から伊那地域においても公民館単位での実施に変更しました。 【参考】()内H24			
	地区	実施日	対象者	出席者
	竜西	8月15日	149人 (144人)	98人 (107人)
	竜東	8月15日	197人 (198人)	138人 (120人)
	富県	8月15日	38人 (34人)	29人 (24人)
	美篁	8月15日	74人 (73人)	59人 (55人)
	手良	8月14日	28人 (23人)	23人 (15人)
	東春近	8月15日	70人 (80人)	54人 (66人)
	西箕輪	8月15日	81人 (96人)	43人 (59人)
	西春近	8月15日	70人 (83人)	58人 (52人)
	高遠町地区	1月2日	51人 (71人)	46人 (64人)
	長谷地区	1月1日	17人 (19人)	15人 (19人)
※伊那地区(竜西～西春近)計71.0% (H23:67.3、H24:68.1%)				
事業の課題及び方向性	【課題】開催方法、時期等を含めて、新成人にとってより良い成人式とは何かを検討し、実施する。 【方向性】「伊那市成人式のあり方検討委員会」を設置し、今後の開催方法等を検討しました。			
自己評価	b			



竜西地区成人式



伊那市成人式のあり方検討委員会

2-3：文化の振興

文化芸術施設の整備及び充実を図り、文化芸術の鑑賞機会の充実や意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

(1)文化事業などの充実

事務事業	No.35-1	伊澤修二記念音楽祭	H25年度決算額	5,946千円
事業の目的	伊澤修二先生を顕彰するとともに、東京藝術大学との交流を通し、地域文化の振興を図ります。			
事業内容	<p>○伊澤修二記念音楽祭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高遠町出身で東京藝術大学の前進である東京音楽学校の初代校長を勤めた伊澤修二先生を顕彰する音楽祭。昭和62年の東京藝術大学創立百周年を機に、旧高遠町で第1回が開催され、秋恒例の音楽祭となっている。 <p>○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会 			
達成状況	東京藝術大学との音楽交流や日頃の練習の成果を発表する機会の創出が図られました。藝大関係者を含む音楽祭関係者同士がより交流を深めました。高校生の関心向上を目的として音楽祭のチラシ、ポスター原画作成を高校生に依頼しました。 【参考】入場者数2,100人（H22:2,200、H23:2,150人、H24:1,950人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】伊澤修二先生を縁とする東京藝術大学とのつながりを大切に、地域文化の振興にいかす必要があります。</p> <p>【方向性】東京藝術大学の優れた音楽に触れ、また市内中学生が指導を受けるよい機会になっています。伊那市固有の音楽祭として発展させるため、積極的なPRを図っていきます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.35-2	い〜な音楽祭	H25年度決算額	330千円
事業の目的	コーラスグループを中心に合唱の発表機会を提供し、音楽を通じた相互交流を深めます。			
事業内容	<p>○い〜な音楽祭2013開催（平成25年12月15日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各音楽団体の代表者により構成された実行委員会が運営し、一般や学校関係団体から参加を募り、一般市民の入場も呼びかけて県伊那文化会館で開催される市内合唱グループの発表会 			
達成状況	実行委員自らの企画運営により、互いの参加団体が協力し合いながら、費用をかけずに充実した音楽祭の開催を図ることができました。 【参考】参加団体数22団体（H22:22、H23:23、H24:23団体）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】身近な発表の場として、参加しやすい運営に努める必要があります。参加団体の増加に対応し、運営方法の検討を進める必要があります。</p> <p>【方向性】今後も息の長い音楽祭となるよう、実行委員会の組織の充実と事業内容の充実を図ります。25年度から参加団体が順番で事務局を務めています。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.36	市民音楽祭	H25年度決算額	290千円
事業の目的	市民に良質な音楽と発表する場を提供するため、市民が企画し参加する音楽祭を開催します。			
事業内容	<p>①ふるさと芸能祭 ②手づくりの演奏会 ③生涯学習センターイベントの3事業を実施します。①と②は隔年で実施します。</p> <p>平成22年度事業 市民音楽祭「ストリングラフィ・アンサンブル公演」 手づくりの演奏会「スターバト・マテール演奏会」</p> <p>平成23年度事業 伊那節大会2011/ふるさと芸能祭 手づくりの演奏会「オペラ春香」(開催準備補助)</p> <p>平成24年度事業 手づくりの演奏会「オペラ春香」</p> <p>平成25年度事業 伊那節大会2013/ふるさと芸能祭</p>			
達成状況	内容などによって参加者にバラツキはありますが、良質な音楽を提供する音楽祭として定着してきています。市民が企画、出演する手づくりの音楽祭です。 【参考】伊那節大会/ふるさと芸能祭 入場者数200人 伊那節コンクール36人出場			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】市民音楽祭の目的である「手作り」「良質な音楽の提供」を基本に、特色ある運営をする必要があります。</p> <p>【方向性】市民が企画し、参加する音楽祭、良質な音楽の提供を進めます。合併10周年に向けて事業の充実を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.37	千両千両井月さんまつり 信州伊那井月俳句大会	H25年度決算額	2,141千円
事業の目的	伊那市を終焉の地とした漂泊の俳人井上井月を偲び、末永く顕彰するとともに、日本の伝統文化である俳句に親しみ、楽しんでもらうため、俳句大会を開催します。 また、俳句愛好者以外にも井月を広め、地域活性化に繋げることを目的に、大会にあわせ、千両千両井月さんまつりを開催します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 第22回信州伊那井月俳句大会の開催(平成25年9月14日~21日) 実行委員会を中心に俳句大会を企画・開催し、事前に募集した小中学生及び一般からの投句の中から、入賞作品の発表・表彰を行ないます。 映画「ほかいびと」上映、田中浪舞踊公演、井月シンポジウム、井月関連展示、物販ほか 			
達成状況	<p>井月愛好者、俳句愛好者、商工関係者等により構成するまつり実行委員会と、俳句大会実行委員会が協働し、『まつり』要素を取り入れて実施した。実行委員会事務局も民間団体が担った。</p> <p>【参考】俳句大会 投句数7,635句(一般1,536句、小中学生6,099句) (H22:6,901、H23:7,716句、H24:8,156句) 一般参加者数234人(H22:200人、H23:198人、H24:178人) その他まつり 田中浪舞踊公演400人、井月シンポジウム80人ほか</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】俳人井上井月を顕彰するとともに、俳句に親しみ、俳句の普及を図る必要があります。まつりとしての事業内容の見直し、広報等、参加者を増やす方策が必要です。民間団体主体の事業運営には課題があり、今後の運営主体の検討が必要です。</p> <p>【方向性】井上井月、俳句を通じて全国的にアピールできる事業であるため、開催方法や内容を検討しながら更に発展させる必要があります。俳句以外の面からも井月に親しむことのできる「まつり」の民間主導による運営の可能性を検討します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.38	進徳館の日	H25年度決算額	332千円
事業の目的	進徳館教育の再発見をし、先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月25日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月25日 会場：高遠スポーツ公園文化体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。</p> <p>○平成25年度 第19回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五聖像に礼拝 ・式典 ・基調講話 高遠北小学校 倉田建郎校長「がんばり学校」のもと「なかよし学校」 ・実践報告 長野県高遠高等学校生徒の皆さん「高遠高校の今」 ・学習報告 高遠中学校吹奏楽部生徒 「吹奏楽」 ・基調講演「江戸幕府の成立と江戸」～保科正之の時代～ 講師 北原 進氏（立正大学名誉教授、元江戸東京博物館都市歴史研究室長） <p>【参考】参加人数 200人（H23: 200、H24: 200人）</p> <p>○平成25年度 第15回進徳館の日記念剣道大会 【参考】参加チーム数 31チーム（H23: 28チーム、H24: 35チーム）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.39	伊那能	H25年度決算額	0千円
事業の目的	日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ機会を提供します。			
事業内容	「能」「狂言」公演の開催 ・平成2年に第1回を民間との協働により開催し、伊那市と県伊那文化会館が隔年で支援し、中学生の希望者を無料で招待しています。			
達成状況	<p>演目などにより入場者数の増減はありますが、日本の伝統芸能である「能」と「狂言」に親しむ良い機会となっています。新たに教職員向けの体験講座を開催しました。</p> <p>○第22回伊那能（平成25年11月17日開催） 【参考】入場者数 630人（H22:800、H23:900人、H24:800人）、 教職員向け体験講座 30人 負担金 隔年負担のため 0千円（H22:475、H23:200千円、H24:475千円） ※23年度までは補助金</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】日本の伝統芸能である「能」と「狂言」を鑑賞できる機会であり、継続のためには、分かりやすい内容で底辺の拡大を図る必要があります。</p> <p>【方向性】実施主体である民間との協働を基本に、分かりやすいものになるように鑑賞講座、ワークショップなどを取り入れながら、県伊那文化会館とも連携し継続開催します。</p>			
自己評価	b			

(2)博物館などの整備・活用

事務事業	No.40	創造館	H25年度決算額	43,619千円						
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。									
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講演会、講座等の開催 ○ 展示関係 <ul style="list-style-type: none"> ・ 常設展、企画展3回、逸品展2回 特別展1回 ○ 貸館業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習室、体験教室1、体験教室2、会議室、講堂 ○ 資料の保管 			マスコットキャラクター 「つくルン」						
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">平成25年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> 【講演会】 開館3周年記念フォーラム、フォーラム「神子柴遺跡とは何か」、第10回企画展特別講演会、第11回企画展特別講演会、第12回企画展講演会 & トークショー、西駒山荘回顧展講演会 参加者 265人 【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室(4講座)、秋冬の体験教室(4講座)、ジオ体験教室(アンモナイトストラップづくり)、南アルプスを食べる・知る 12講座 26回 延参加者 1,061人 </td> </tr> <tr> <td> 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財) 【企画展展示】 第10回企画展(南アルプスジオパーク展)、第11回企画展(千両千両井月展)、第12回企画展(日本人工衛星博覧会) 逸品展その7(ビジュアル資料で知る戦争展)、逸品展その8(日本画の絵画表現の謎にせまる) 特別展 西駒山荘回顧展 延観覧者 16,556人 </td> </tr> <tr> <td> 【施設整備】 展示室改修工事(2階会議室を井月展示室として改修) </td> </tr> <tr> <td> 【貸館】 延利用者 12,529人 </td> </tr> <tr> <td> 【参考】 H25 開館日数 299日、利用者数 29,085人 H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人 </td> </tr> </tbody> </table>				平成25年度 事業内容	【講演会】 開館3周年記念フォーラム、フォーラム「神子柴遺跡とは何か」、第10回企画展特別講演会、第11回企画展特別講演会、第12回企画展講演会 & トークショー、西駒山荘回顧展講演会 参加者 265人 【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室(4講座)、秋冬の体験教室(4講座)、ジオ体験教室(アンモナイトストラップづくり)、南アルプスを食べる・知る 12講座 26回 延参加者 1,061人	【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財) 【企画展展示】 第10回企画展(南アルプスジオパーク展)、第11回企画展(千両千両井月展)、第12回企画展(日本人工衛星博覧会) 逸品展その7(ビジュアル資料で知る戦争展)、逸品展その8(日本画の絵画表現の謎にせまる) 特別展 西駒山荘回顧展 延観覧者 16,556人	【施設整備】 展示室改修工事(2階会議室を井月展示室として改修)	【貸館】 延利用者 12,529人	【参考】 H25 開館日数 299日、利用者数 29,085人 H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人
平成25年度 事業内容										
【講演会】 開館3周年記念フォーラム、フォーラム「神子柴遺跡とは何か」、第10回企画展特別講演会、第11回企画展特別講演会、第12回企画展講演会 & トークショー、西駒山荘回顧展講演会 参加者 265人 【講座等】 宇宙の学校(5回)、地球の学校(5回)、夏の体験教室(4講座)、秋冬の体験教室(4講座)、ジオ体験教室(アンモナイトストラップづくり)、南アルプスを食べる・知る 12講座 26回 延参加者 1,061人										
【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器(国重要文化財) 【企画展展示】 第10回企画展(南アルプスジオパーク展)、第11回企画展(千両千両井月展)、第12回企画展(日本人工衛星博覧会) 逸品展その7(ビジュアル資料で知る戦争展)、逸品展その8(日本画の絵画表現の謎にせまる) 特別展 西駒山荘回顧展 延観覧者 16,556人										
【施設整備】 展示室改修工事(2階会議室を井月展示室として改修)										
【貸館】 延利用者 12,529人										
【参考】 H25 開館日数 299日、利用者数 29,085人 H24 開館日数 299日、利用者数 26,655人										
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。</p> <p>【方向性】 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。</p>									
自己評価	a									

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	H25 年度決算額	17,346 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社山車や仲町山車など勇壮な山車と祭り		
	第1展示室	高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠城主内藤家に伝わった家宝の兜や古文書		
第2展示室 (特別展示)	藩校進徳館と「高遠の学」 伊澤修二・多喜男、中村弥六など地域が生んだ偉人たち 高遠石工と石仏師守屋貞治			
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復元屋敷を展示			
○特別展の開催（下記）				
達成状況	○平成25年度特別展 魅力ある特別展を開催し、観光客の誘致にもつながっています。			
	テーマ	内容		
	第41回特別展 『絵島～美しき流人 大奥から高遠へ～』(3月23日～6月23日)	江戸時代、大奥で起きた絵島事件をテーマに、高遠に残る関係資料を展示し、この事件の実情に迫るとともに、事件が当時の社会に与えた影響や現在につながる文化芸能の流れを見つめ直す。		
	第42回特別展 『小説家 島村利正』～小説につながる風景～ (9月21日～11月10日)	郷土が生んだ小説家「島村利正」の小説原稿や執筆活動に用いた道具を紹介し、来館者に島村利正の世界に触れてもらう。		
	第43回特別展 『高遠石工』 ～鑿に込めた想い (10月9日～12月15日)	江戸時代、信州高遠は石工の故郷として全国的に知られていた。本特別展では、各地に残る資料や作品を紹介しながら、江戸時代から現在に至るまでの軌跡を辿る。		
【参考】 ・特別展開催数3回 (H23:3回、H24:3回) ・年間入館者数20,387人 (H23:20,126人、H24:22,536人)				
事業の課題及び方向性	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他市との文化交流を図る必要があります。 【方向性】市の歴史と文化に関する資料を収集・保管し、常設展示に加え、魅力ある特別展を開催します。そのためにも、臨時職員のみでの現体制から、専門知識を備え、企画運営力がある職員の配置について検討をします。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	H25 年度決算額	27,492 千円																								
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。																											
事業内容	<p>○常設展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀敏、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○特別展</p> <p>○アートスクール 東京藝術大学の学生、地元芸術家などの指導と協力を得て、人物クロッキー、風景画、陶芸などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器や歌など国内外で活躍中の演奏家や地域で活躍している皆さんによるコンサート</p>																											
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。しかし入館者数は前年度より 30.9% 減となり企画展の内容や周知等の検討が必要と思われます。</p> <p>○平成 25 年度特別展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ</th> <th>マ</th> <th>内</th> <th>容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ジュディオン展(4月3日～5月19日)</td> <td></td> <td>歌手として、女優として日本のみならず世界を舞台に活躍する「ジュディ・オンク倩玉」の木版画を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>京都工芸の精華展(6月29日～7月31日)</td> <td></td> <td>工芸美術の素晴らしさを世界に発信する作家集団・工芸京都の作品を展示しました</td> <td></td> </tr> <tr> <td>木下五郎彫鍛金展(9月8日から10月14日)</td> <td></td> <td>木下五郎氏からの作品「夢現幻(むげんげん)」寄贈を記念して金属作品を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>日本画院展(10月17日～11月24日)</td> <td></td> <td>日本の自然とそこで営まれる生活の中の美を表現する日本画院会員の作品を展示しました。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>高遠焼展(11月27日～1月16日)</td> <td></td> <td>御庭焼から明治時代の民間窯の高遠焼名品を展示しました。</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○ミュージアムコンサート エル・カミーノ、Arisa×Mamiko コンサート、川島成道ヴァイオリンリサイタル</p> <p>【参考】 入館者数 18,342 人 (H23: 12,869 人、H24: 26,536 人) コンサート入場者 264 人 (H23:280 人、H24:808 人)</p>				テ	マ	内	容	ジュディオン展(4月3日～5月19日)		歌手として、女優として日本のみならず世界を舞台に活躍する「ジュディ・オンク倩玉」の木版画を展示しました。		京都工芸の精華展(6月29日～7月31日)		工芸美術の素晴らしさを世界に発信する作家集団・工芸京都の作品を展示しました		木下五郎彫鍛金展(9月8日から10月14日)		木下五郎氏からの作品「夢現幻(むげんげん)」寄贈を記念して金属作品を展示しました。		日本画院展(10月17日～11月24日)		日本の自然とそこで営まれる生活の中の美を表現する日本画院会員の作品を展示しました。		高遠焼展(11月27日～1月16日)		御庭焼から明治時代の民間窯の高遠焼名品を展示しました。	
テ	マ	内	容																									
ジュディオン展(4月3日～5月19日)		歌手として、女優として日本のみならず世界を舞台に活躍する「ジュディ・オンク倩玉」の木版画を展示しました。																										
京都工芸の精華展(6月29日～7月31日)		工芸美術の素晴らしさを世界に発信する作家集団・工芸京都の作品を展示しました																										
木下五郎彫鍛金展(9月8日から10月14日)		木下五郎氏からの作品「夢現幻(むげんげん)」寄贈を記念して金属作品を展示しました。																										
日本画院展(10月17日～11月24日)		日本の自然とそこで営まれる生活の中の美を表現する日本画院会員の作品を展示しました。																										
高遠焼展(11月27日～1月16日)		御庭焼から明治時代の民間窯の高遠焼名品を展示しました。																										
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 入館者数が減となり企画展の内容や周知等の検討が必要と思われます。所蔵美術芸術品の活用をはかるとともに、美術や芸術に関連する講座・教室など魅力ある事業の企画運営を進める必要があります。</p> <p>【方向性】 魅力ある企画展及び所蔵作品を活かした展示企画の検討を行い、市民や地域への幅広いPRに努めます。また、魅力ある講座・教室を企画、貸し館事業(コンサート・展覧会・結婚式等)も進めて、芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</p>																											
自己評価	b																											

第3節 文化財の保存・継承・活用

3-1：文化財の保存・継承・活用

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、保護だけでなく、積極的に公開し、活用します。また、地域の民俗芸能を継承する活動を支援します。

(1)文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.43	史跡高遠城跡	H25年度決算額	226千円
事業の目的	<p>昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。</p> <p>合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。</p>			
事業内容	<p>○発掘調査などの実施</p> <p>・史跡高遠城跡保存管理計画等に基づき、復元時期を幕末に設定して復元整備を行います。また、城郭の状況を正しく理解し、開発等から埋蔵文化財を保護するとともに、史跡の復元のための調査を行い、記録報告書を作成します。</p>			
達成状況	<p>史跡高遠城跡保存管理計画、同整備基本計画、同整備実施計画に基づき整備を進めています。</p> <p>史跡高遠城跡整備委員会において、史跡整備計画の内容検討を行いました。</p> <p>【参考】発掘面積0㎡（H22:0、H23:0㎡） 史跡面積(126,210.48㎡)に対する発掘済み累計面積の割合1.17% (H22:1.17、H23:1.17%)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】整備実施計画の短期整備計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p>【方向性】前期計画の調査結果に基づき、整備委員会の開催により後期整備実施計画の策定を進めます。</p>			
自己評価	b			



池上秀畝 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.4 4	民俗資料館	H25 年度決算額	4,091 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、桁行9間梁行5間の町屋造り板葺きの妻入り住宅。特殊な町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
	○特別企画展示の開催（年2～3回） ○公民館と共催で体験講座を開催（4～5回）			
達成状況	○企画展 「ひなまつり展」2/29～5/13、「五月人形展」4/14～6/25 ○体験講座（高遠町公民館と共催で実施） 古布を使った布草履づくり、手ぼうきづくり、しめ飾りづくり 計3回 【参考】年間入館者数5,539人（H23；4,685人、H24；4,792人）			
事業の課題及び方向性	【課題】駐車場が整備され、観桜期間中の入館者が増加しました。更に、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。 【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施し、地域の皆さんに親しんでもらえる、観桜期以外にも集客できる運営に努めます。			
自己評価	b			



旧馬島家（県宝）

事務事業	No.4 5	旧井澤家住宅	H25 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託 ○一般公開 ・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m ²			
達成状況	○平成 25 年度特別企画 「端午の節句飾り展」、「会員所蔵品展」ほか 【参考】入館者数 1,656 人 (H24: 1,468 人)			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を進める必要があります。 【方向性】 地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できるよう企画について継続して見直しを進めます。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 6	考古資料館	H25 年度決算額	359 千円
事業の目的	中央道発掘調査出土遺物を関係市町村へ移管する。施設譲渡を含め、地元において施設活用できるかどうか協議をおこなう。			
事業内容	考古資料（市内発掘調査）と近世の絵馬を収蔵			
達成状況	西箕輪地域協議会と協議の結果、地元活用できないこととなったので、収蔵庫として使用する。			
事業の課題及び方向性	【課題】 中央道発掘調査出土品の関係市町村分は移管が完了しました。伊那市分の資料活用について検討する必要があります。 【方向性】 資料の再整理を行い、活用について検討中です。			
自己評価	b			

事務事業	No.4 7	民俗文化の伝承	H25 年度決算額	3,731 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊りの習俗」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	平成 25 年度事業 ○文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業（文化庁）を活用（4 団体） ○コミュニティ助成事業（県市町村振興協会）を活用 獅子舞道具更新（下牧区）、二十二夜様道具更新（島畑町内会）			
事業の課題及び方向性	【課題】 地域の民俗文化を伝承しようとする地域の活動や保存会を支援する必要があります。 【方向性】 有利な財源を確保しながら支援を進めます。			
自己評価	b			

第4節 スポーツ・レクリエーションの振興

4-1：豊かなスポーツライフの実現

いつでも、どこでも、だれもがスポーツに親しみ、心身の健康の保持増進を図るとともに、活力ある地域社会を形成するため、生涯スポーツを推進し、市民一人ひとりの「豊かなスポーツライフ」の実現をめざします。

(1) スポーツライフの実現

事務事業	No.48	市民体育祭	H25年度決算額	1,299千円
事業の目的	伊那市におけるスポーツの振興・推進のため、市民を対象とした当該大会を開催することにより、市民のスポーツの関心を喚起し、健康増進に寄与します。			
事業内容	○市民体育祭の開催 ()内H24			
	種目	参加者数	種目	参加者数
	ゴルフ	179 (215)人	バドミントン	87 (82)人
	軟式野球(学童)	305 (405)人	バレーボール	225 (210)人
	〃(一般)	505 (388)人	バスケットボール	263 (346)人
	山岳	25 (14)人	ソフトボール	411 (430)人
	太極拳・気功	28 (52)人	ソフトテニス	149 (180)人
	少林寺拳法	39 (48)人	卓球	88 (63)人
	ゲートボール	145 (94)人	柔道	135 (183)人
	硬式テニス	65 (85)人	サッカー	195 (226)人
	弓道	145 (216)人	マレットゴルフ	94 (75)人
	剣道	326 (324)人	ソフトバレー	128 (171)人
	陸上	61 (68)人	スケート	46 (66)人
	トリムバレー	213 (212)人	綱引	36 (38)人
	フットサル	335 (241)人	スキー	中止 (45)人
	海洋	12 (21)人	パターゴルフ	42 (37)人
	カヌー	10 (-)人	ラグビー	30 (-)人
達成状況	<p>体育協会の各専門部が種目毎に主管となって実施し、市民に最も身近なスポーツ大会として開催しています。ホームページ等の広報を充実させ、参加者を増やす方を講じながら、継続して開催することを目標に実施します。</p> <p>【参考】平成25年度実施状況 28種目 29部門 (6月30日から2月24日) 1種目中止 参加人数 4,322人 (H23:4,485人、H24:4,535人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】多くの市民が参加できるよう、種目の検討や広報を充実させることにより参加者を増やす工夫が必要です。</p> <p>【方向性】引き続き広報等PRに努め、市民が参加しやすい大会の持ち方と初心者が参加できる種目についても検討し、開催します。</p>			
自己評価	b			

事務事業	No.49	総合型地域スポーツクラブ	H25年度決算額	3,050千円
事業の目的	スポーツの振興及び市民の健康増進・体力向上を図ります。			
事業内容	総合型地域スポーツクラブの活動支援 ・スポーツ教室の開催、各種イベント・大会の開催			
達成状況	<p>市民が手軽にスポーツを楽しむことができる複合型のスポーツクラブとして、各種イベントや教室の開催を通じ、会員の登録数が着実に増えてきています。</p> <p>通年開催の講座は80を超えており、スポーツ以外の分野の教室も開催しています。これは、スポーツに関心のない市民にとって、新たにスポーツに取り組むきっかけづくりとして期待がされており、先進的な取り組みと評価されています。</p> <p>平成25年度も市からの委託事業で、各スポーツ団体向けに指導者スキルアップ講座を開催しました。また、ますみヶ丘平地林クロスカントリーコースの活用を兼ね、ノルディックウォーキング教室を開催しました。</p> <p>今後、伊那市の生涯スポーツ振興の中心を担う存在となることが期待されます。</p> <p>【参考】クラブ登録会員数 2,272人 (H23:1,585人、H24:2,159人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】自主運営型・複合型スポーツクラブとして自立できるように支援し、地域ニーズにあった各種事業を開催する必要があります。</p> <p>【方向性】各種大会・研修会、教室の開催など、より多くの市民がスポーツに係われるようなクラブ運営を、総合型地域スポーツクラブが自立し推進できるよう行政も支援します。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.50	春の高校伊那駅伝	H25年度決算額	9,500千円
事業の目的	長野県内の陸上長距離競技のレベルアップ及び振興を図るとともに、観光や合宿等の集客や伊那市のPRを行います。			
事業内容	春の高校伊那駅伝の実施 ・実行委員会の運営 ・関連団体や関係機関及び参加校等との連絡調整全般			
達成状況	<p>全国から注目を集める大会に成長し、女子第30回記念大会となった今大会は、男女合わせ200校がエントリーしました。当日は過去最多の180チームが参加し、大会の充実が図られました。好天に恵まれ、応援運動やイベントなども盛り上がりを見せ、沿道からたくさんの方々に応援していただき、市民とともに作り上げる駅伝となっています。</p> <p>また、伊那市の魅力発信・合宿誘致についても、機会を得て合宿ガイドや観光パンフレットを送付し、取り組みを進めています。今大会では、初めて農家民泊の利用を案内、1校が宿泊し市民との新たなふれあいを生むことができました。</p> <p>【参考】エントリー数1,859人 (H23:1,565人、H24:1,668人) 出場数180チーム (H23:153チーム、H24:167チーム)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】陸上競技の普及・振興とともに、伊那市のPRにきわめて有効な事業であるため、観光PRにも寄与できる要素や、合宿誘致等も念頭におき、「駅伝のまち」としての環境整備を検討する必要があります。また、参加校が増えたことから、引き続き安全な大会となるよう十分配慮していきます。</p> <p>【方向性】実行委員会を中心に、魅力ある安全な大会運営を進めます。</p>			
自己評価	a			

事務事業	No.5 1	ソフトボールの振興	H25 年度決算額	500 千円
事業の目的	ソフトボールのまち「伊那市」として、毎年継続的に全国規模の大会を開催することにより、市民にハイレベルな試合観戦の機会を提供しています。			
事業内容	○全国規模の大会の開催 ○長野県ソフトボール協会へ大会補助金交付			
達成状況	○平成 25 年度 ・第 12 回全日本エルデストソフトボール大会 43 チーム 参加者数 約 1,150 人 (平成 25 年 10 月 12 日 (土) から 14 日 (月)) ○小学生女子チーム「アルプスイーナちゃんクラブ」も、継続的な活動をしています。			
事業の課題及び方向性	【課題】全国大会の誘致と、競技人口の拡大を図る必要があります。 【方向性】引き続き全国規模の大会誘致と式典の簡素化など経費の見直しを行なうとともに、ソフトボール教室の開催、指導者の育成など競技人口の拡大ができるよう、ソフトボール協会を支援します。			
自己評価	a			

事務事業	No.5 2	体育施設の整備	H25 年度決算額	435,986 千円
事業の目的	利用者の利便性向上を図るため、体育施設及び設備の整備を進めます。			
事業内容	体育施設等の管理及び整備			
達成状況	平成 25 年度事業 (1) 東原スポーツ公園運動場整備工事 敷地面積 16,723.96 m ² 運動場整備一式 (2) サンビレッジ駐車場整備工事 駐車場面積 1,277.80 m ² (3) 高遠スポーツ公園文化体育館整備工事 バスケットゴールライン改修、LED 化工事 (4) 伊那市営野球場整備事業 市営野球場の整備 (継続費) (5) 市民プール補修工事 幼児用プール改修、流水モーター改修 (6) 武道館耐震化工事 I S 値 0.7 以上			
事業の課題及び方向性	【課題】老朽化施設の整備及び施設の統廃合を順次進める必要があります。 【方向性】平成 25 年度中に、体育施設あり方庁内検討委員会を立ち上げ、あり方検討結果報告書を作成。平成 26 年度は、あり方に関する基本的な考え方を作成し、議論を深めることとします。			
自己評価	a			



春の高校伊那駅伝



東原スポーツ公園運動場整備工事竣工

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

一部の事務事業では指標を変えたり費用の内訳を示したりする工夫も必要と考えられるが、ほとんどの事業で、目的に適った効果の分析と検証がなされており「概ね妥当」である。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 教育行政が「生きる力」を育てるべく、「人間性を育む」「学力向上」「心身の健康増進」「文化的な素養」の観点で、幼児教育から生涯教育まで各世代を対象にバランス良く行われている。加えて、図書館や公民館等の事業が体系的に調和して、側面から学校教育と家庭教育を後押ししており、本市の教育行政が目指すべき方向であると高く評価できる。
- (2) 学校教育、生涯学習、スポーツ等それぞれの分野において、しっかり計画されて取り組まれている。前年度の課題に対し、次年度に取り組みしっかりサイクルが回っている。
- (3) 一覧で見た場合、新しい取り組み、廃止した取り組みがどのくらいあるかわかるようにしていただきたい。教育行政と取り巻く環境は日々変化しているので、事業も毎年変化が必要。その部分を目に見えるようにしていただきたい。
- (4) 今後少子化が進んでいく。今後は高校再編も視野に入れ、早めの対応をしていただきたい。
- (5) 来年度から教育委員会の体制が変わる。学校との連携がスムーズになり、教育現場がより子どもに寄り添った環境になるよう希望する。
- (6) 伊那市の特徴が各分野に展開されており、単独の自治体としてはユニークで豊かな内容の教育行政といえる。独自事業と基本事業とのバランスを保ちながら推進してほしい。
- (7) 今後も伊那市独自の取り組みで、自然のすばらしさ、文化や歴史の尊さ、学業やスポーツ、生涯学習の大切さなどを感じられる事業を追求してほしい。そこから、子どもたちや市民が、郷土を愛し、暮らしに生きがいを感じ、思いやりの気持ちを育み、日々成長していけることを願う。
- (8) 旧伊那市と高遠町、長谷村が合併したメリットを生かしてほしい。高遠高等学校への支援、生涯学習における重複事業など、合併のメリットを生かし切れていないように感じる。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
1 ～7	学校教育の充実	<p>倫理観や思いやりの心など、豊かな人間性を育む「心の教育」の充実が図られている。</p> <p>「総合学習」事業に見られるように、郷土の人材と教育資産を十分に活用している点が評価できる。グローバル時代だからこそ、自分の住む地域に目を向け、その良さを世界に発信していこうとする生徒を育てたい。</p> <p>時代の変化により、特に小規模校では新たな課題に直面している。成長期に少数の限られた人としか接しないことが、その後の人間関係作りに影響することが危惧される。より多くの同世代または異なる世代の人達と過ごせる環境を作り出すための施策が求められる。</p> <p>「ゆとり教育」からの転換を図った新学習指導要領は、量が多い上に内容も難しくなっており、生徒の学力差をより一層拡大させている。基礎力不足（低学力）の生徒への対応は緊急を要する。さらに、携帯電話やスマートフォン等のコミュニケーションツールが、学習に向かわない生徒を生んだり、いじめ問題を引き起こしたりしている。学校や保護者が個々に対応しても上手くいかない状況もあり、教育行政が効果のある具体的なルールを思い切って打ち出し、社会全体で対応する必要性を感じている。</p> <p>「中間教室特別支援」、「不登校児童生徒支援ネットワーク」、「外国籍児童の支援」、「スクールカウンセラー」事業等、教育弱者へのきめ細かい指導が行われている。このような取り組みは時代を反映しており、今後更に必要性が高まるものと思われる。</p>
1	総合的な学習	<p>各学校が地域の特色を生かし、生きる力や連帯感を育み、郷土を愛する地域体験型学習ができています。学校間で交流し、各学校で独自に行っている素晴らしい取り組みを発表したり共有したりすることも有益であると考えます。</p> <p>小中学校の学習範囲内で子どもたちの「生きる力」「郷土を愛する心」を育てようとする目的は、確かに総合的でありさまざまなとらえ方、位置づけが考えられる。体験・交流学習をすれば目的は達成されるとは限らず、学年や学級、あるいは担任の教諭によって、その内容は大きく異なり差が生じると思われる。各学校、各地域で特色ある学習を推進し、確実に子どもたちの心身の成長につながるよう、教育委員会や教員自身が、総合的な学習に対する熱意・意欲の継続と創造力向上に努めていただきたい。体験・交流という名のもとでマンネリ化、形骸化しないよう希望する。</p>

No.	事務事業等	意見等
2	学力向上	<p>基礎学力のない生徒（低学力生徒）の支援に力を入れて欲しい。新学習指導要領は内容が難しく学習量も増えており、学習内容が消化できないままに取りこぼされている生徒が一定数いる。また、学ばないことを自ら選ぶ「下流志向」の生徒が増加している。このような生徒が抱える問題は、中学、高校と上位学校へ進むほど深刻であり、無気力な生徒が増えるにとどまらず、場合によっては重大な問題行動を引き起こすことさえある。できるだけ早い段階で支援の手を差し伸べることが、全ての児童生徒に、学ぶことを諦めさせず、生きる力にもつながるであろう。確かな学力を保障する施策が求められていると考える。具体的には学習支援ボランティアの配置や、その支援活動の充実が考えられる。また、昨今、学力低下を引き起こすことが明らかになってきている携帯電話やスマートホンの利用について、具体的なガイドラインやルールを行政が中心になって打ち出す必要があると考える。その上で、学校と家庭が一体となって徹底して取り組むことでより効果が出ると考える。</p> <p>信州型コミュニティスクールを組織化したうえ、放課後を利用した課外授業などを地域の方の力を借りて設定し、子どもたちの学力を向上させてほしい。</p> <p>中学校による放課後学習の目的の再確認とその効果を検証されたい。街中の学校の生徒たちは学力向上・成績アップのために民間の塾へ行く生徒が多い。学校での放課後学習に学力向上を求めるのは無理があるように感じる。学力向上が学習支援員の役割とされるため、支援員が集まりにくい現状もあるのではないかと。生徒たちが学習時間を確保する、仲間と一緒に学習に励むことで意欲が湧く、など比較的緩い目的で放課後学習を細く長く続けてほしい。</p>
3	幼保小中の連携	<p>文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会でも提言されている小中一貫校を見据え、小中の連携を強める取り組みが求められる。児童生徒が多様な教職員、児童生徒と係わる機会を増やすことで、小学生の不安を軽減することや、中学生の上級生としての自尊心が高められ不登校やいじめの解消につながっているという報告もある。</p>
4	読書活動の推進	<p>子どもの頃に読書を習慣化することが大切である。ここ数年、伊那市の図書館は新しい企画を立てるなど大きく改善されている。図書館長から本を読む大切さを講演してもらうなど、図書館と連携した取り組みの工夫が望まれる。</p>
5	特別支援教育	<p>副学籍制度による支援学級の児童生徒と地域の児童生徒との交流や共同学習、行事参加は、今後も積極的な拡充を望む。子どもたちや保護者らの理解が必要なこともあり、学校、教員の負担も増すとは思いますが、特別支援が必要な子どもが増えていることから、さらなる体制強化、支援拡充が求められる。そのためにも学校と教員が障害に対する正しい知識、対処方法を学んでほしい。教育者は学校現場において障害をもった子どもに対する誤った先入観を排除し、差別的な言動は避けてほしい。</p>

No.	事務事業等	意見等
7	給食運営	<p>近年食生活をめぐる環境は大きく変化しており、子どもにより影響が顕在化している。栄養の偏り、不規則な食事、食の海外への依存、伝統的な文化の危機、食の安全等様々な問題が生じています。給食を通して食育を推進して欲しい。かつて長谷学校給食共同調理場が全国学校給食甲子園で地場産物を活かした自慢料理で優勝した。参考にしてもらいたい。</p> <p>ぎりぎりの経費のなか、地産地消の安心安全でおいしい給食の提供、食育や暮らしとつながる食への理解、という給食運営をするのはご苦労が多いと推測される。行政や栄養士が積極的に食材の調達、調理上の工夫を図り、実際に作る人（給食技師）が仕事をしやすい環境を整備することが必要ではないか。臨時職員化は経費削減にはなるが、本当に望ましい給食提供に効果があるのか検討していただきたい。</p>
10	高等学校支援	<p>高校によって支援の額が違うのはどうかと思う。いろいろな経過はあると思うが、支援する目的が同じであれば、金額を同じにすべき。不公平感を感じる。財政が厳しければ、低い方に統一すべきだと思う。</p>
12 ~16	心の教育と支援	<p>「子育て支援相談」、「子どもと親の相談員の配置」事業は、悩める保護者に安心感を与える重要な施策で、継続すべきものであると考える。</p>
13	子育て教育支援 相談、家庭児童 相談	<p>親の養育力の低下が児童虐待やネグレクトなど社会問題を引き起こしている。学校は家庭にはなかなか踏み込めないこともあるので、ソーシャルワーカー、警察等がより連携して対応を話し合い、重大な事態にならないよう組織体制の強化が必要である。</p>
14 15 16	不登校児童生徒支 援ネットワーク、子 どもと親の相談員 配置、スクールカウ ンセラーの配置	<p>不登校や学校生活への問題を抱える児童、生徒、その保護者のために適切な人材、必要な人数の配置が望まれる。効果や解決、結果など目に見えない事業のため、相談件数や不登校の児童・生徒数を単純に前年の数字と比較するのは違和感がある。前年比の増減、行政側の判断よりも、どんなプロセスを経て何をもって解決としたのか、子どもや保護者側の声を汲み取って行政・学校・関係機関・保護者等が成功事例を共有してほしい。個々のケースに応じて対応できる相談支援体制の充実、時間の確保をお願いしたい。</p>
17 18	市民大学 桜大学	<p>地域の特性はあるかと思いますが、重なった事業があるように思える。是非とも効率化を図っていただきたい。</p> <p>地域の有能な人材が講師となって、一般市民が誰でも学習できる講座が用意されている。また、高齢化社会の中で、歳を重ねても生涯学習できる場が提供されるのはすばらしいことだ。ただ、両大学が合併前の名残で似たような事業であるにもかかわらず、同時並行で事業継続されていることに改善の余地があるのではないかと感じる。今すぐでなくとも、将来的に一本化・縮小も検討できるのではないかと。</p>

No.	事務事業等	意見等
19-1	長谷生涯学習講演会	長谷村時代からの講演会で、公民館と学校、PTA が共催する規模が小さい割に、人的労力、経費がかかっているのではないかと。著名人を呼ばなければ人が集まらない、少子化、高齢化地域で動員をかけられる、学校教職員や PTA が準備から当日までかなりの時間ボランティアをしなければならない、など小さな地域に大きな負担がかかっている事業ではないだろうか。市民大学、桜大学と合わせて今後の方向性を検討してみてもどうか。
19-2	親孝行の讃歌事業	有名な「孝行猿」の民話を教育現場で活用したり、長谷地域の活性化に役立てたりと、特色ある良い取り組みだと思う。長谷小学校での「孝行猿の日」（児童が民話を劇で発表）は保護者や地域住民が見に行くと感動し涙が出ると好評。伊那市内、ほかの小学校でも「孝行猿」の日をつくってもよいのでは。市内の小中学生から「今、伝えたい親へのおもい」の作文を募集し、表彰してまとめた冊子も感動したという声をよく聞いた。老若男女参加できる事業であり、全国的な展開も視野に入れて力を入れてほしい。
30	学童クラブ	厳しい経済情勢下、働く母親が増えており、放課後、児童の保護や健全育成のために必要な事業。安全な体制を整え、拡充し、指導員を適切に配置して子どもたちを安心して預けられる学童クラブを設置してほしい。若い世代が暮らしやすい、働きやすい、子どもを育てやすい環境を提供し、伊那市に住んでよかったと思えるようにしてほしい。
35~47	文化事業などの充実 博物館などの整備・活用 文化財の保存・継承・活用	歴史と文化を誇る本市の文化施設を活用した事業は優れている。個々の事業を市民に周知し参加を促すさらなる工夫が望まれる。
37	信州伊那井月俳句大会	俳句好き、井月好きには大変魅力ある取り組みだが、どこまで分野や関係団体を広げるかは課題だろう。俳句大会と映画「ほかいびと」の上映会をする日（週間）と的を絞ったほうが長続きするのではないだろうか。「まつり」にする目的が理解できない。文化的事業だから経費は惜しまないというのではなく、多くの市民にとって必要だと判断できる説明が不可能なら予算規模や事業内容、民間委託を検討すべきではないか。

No.	事務事業等	意見等
49	総合型地域スポーツクラブ	子どもから大人まで各種スポーツに取り組むきっかけとなるような体制作りが望まれる。学校体育や部活動だけでは不足する範囲を補うという観点からも、各団体、スポーツクラブなどの自主運営、自立支援のために人材確保、指導者育成、物資提供などソフト面、ハード面において教育行政の支援が必要。競技人口の底辺を広げることでスポーツレベル・質の向上を図りたい。また、市民のニーズがあるとはいえ、スポーツ以外の分野の活動支援はこの事業とは分けるべきではないか。
50	春の高校伊那駅伝	全国から出場校も増え、地域一丸となって開催に尽力している駅伝大会。行政と市民の連携、参加も進んでいる、沿道の交通整理、ボランティア活動、住民の応援などからうかがえる。さらに教育委員会だけでなく各部署との連携を図り、観光や産業と結びつけて事業展開してほしい。陸上競技レベルの向上と「駅伝のまち」として全国にアピールできるよう期待したい。

平成26年度

伊那市教育委員会評価委員

高遠高等学校長

新井 正紀

中部PTA連合会会長

春日 博文

女性人材バンク

吉田 由季子